

ま ち の 話 題



女性協議会が会員交流会を開催

6月30日、おこり女性協議会の会員交流会が開催されました。おこり女性協議会は、9の団体と個人会員で構成された団体で、男女共同参画や環境問題などに取り組み、豊かな地域づくりを目指しています。

普段はなかなか顔を合わせる機会が少ない会員同士の交流を図ろうと企画された、室内ベタンク大会。競技前には談笑していた会員も、球を投げるときは真剣そのもの。一投ごとに歓声をあげたり、ため息をついたり、会場のあちこちで賑やかな話し声が響き、会員の交流を深めた一日となりました。



熱心に講話する
君原健二さん

君原健二さんの講演会

6月28日、生涯学習センターでメキシコ五輪銀メダリストの君原健二さんの講演会が開催されました。これは今年から始まった、たまたまの第1回目の講師として君原さんが招かれたものです。挑戦、努力が報われる」と題し、これまでの人生とマラソンとのかわり、努力すること生まれる喜び、これからの目標などをわかりやすくユーモアを交えながら話していた。聞き入り、100人を超える受講生も遊倶楽部はこれまでの、七夕大学が生まれ変わったもので、これまでは決まっていた内容を講座を受講していたものを今回から自分たちで企画することができるよう



ポンプ操作大会

心この声が聞かれました。また、女性消防団員による救急操作法の展示もあり、AED(自動体外式除細動器)を使った訓練を披露しました。

大会の順位は、次のとおりです。

団体表彰
優勝 第3分団、準優勝 第7分団、第3位 第1分団、第4位 第4分団、第5位 第6分団、第6位 第5分団、第7位 第2分団

個人表彰
指揮者 福田大輔(第3分団)、1番員 行徳俊明(第3分団)、2番員 行徳経志郎(第3分団)、3番員 村上 拓(第7分団)、4番員 永利日出雄(第5分団)

7月15日、三井消防署訓練場(大板井)において、小郡市消防団(川口大団長、団員229人)による、第26回小郡市消防団ポンプ操作大会が行われました。

ポンプ車の操作に関する基本的な動作や伝達の仕方などのほか、団員の正確な動きも審査され、7つの分団から選出された選手たちは、張りつめた雰囲気の中、張りつめた選抜のなか、操作を披露していました。それぞれに分団では、4月に入団した消防団員を中心に、2か月以上前からこの日にむけた訓練が行われていて、機敏な動作に、来賓などからは、災害のときも一安心

お祭り案内

市内各地で「花火大会」「夏祭り」が開催されます。
お近くの「祭り」に参加してみても、どうでしょうか。



名称	開催日	会場	時間	内容
夢HANABI 2007	8月4日(土)	小郡運動公園前	午後7時45分	約8,000発の色とりどりの花火が小郡の夏の夜空を飾ります。
七夕神社の夏祭り	8月7日(火)	七夕神社	午後6時~8時	夏祭りイベント
くろつち夏まつり	8月18日(土) 雨天時19日に順延	立石地域運動広場 (くろつち会館北側)	午後4時	つなひき
			午後6時~9時	ステージ部門
祭りあじさか 2007	8月19日(日)	味坂小学校グラウンド	午後5時30分~9時15分	ステージ部門
小郡市民まつり	8月25日(土)	西鉄小郡駅前大通り	午後1時~10時	多くの屋台が立ち並び、野外ステージが設けられ、織姫と彦星の七夕伝説など、たくさんのイベントが行われます。



若い者にはまだ負けんよ！

6月9日、第一回九州還暦軟式野球大会福岡県大会が久留米市で行われ、小郡シニアクラブ(原憲一監督ほか22人)が県代表に選ばれました。還暦野球は年齢が58歳以上の人が対象で、県内には10チームが登録されています。今回の福岡県大会には、9チームが参加し、若い者にはまだ負けんよと、俊敏な動きをみせていました。原監督は平均年齢が63歳と野球経験も良い年齢を重ねてきましたが、まだまだ負けないうもりでやっている人が多いいですね。でも、痛いとか、こるとかいろいろありますよと笑顔で話していました。なお九州大会各県2チーム、計16チーム)が9月1、2日、佐賀県嬉野市などで開催され、シニアの選手たちが熱戦を繰り広げます。



家族で田植え体験

7月1日、親子ふれあい田植え体験が市内の家族約30人が参加して行われました。この田植えは、元農業委員佐藤良一さん等の指導のもと、今限の水田で行われ、ヒノヒカリの苗を7アールの田んぼに1本1本植えました。希みが丘から参加した山下さんは、「虫がいたり鳥の足跡があったりする田んぼで、家族が泥んこになりながら田植えをして楽しかった。食物の大切さを改めて感じることができました」と話し、家族のきずなを深める行事となりました。10月には、稲刈り体験教室を開く予定で、主催した田笠富子さん(今限)は、「生産者と消費者とのふれあいを通じて食の大切さと地元の食文化に関心をもってもらいたい」と話していました。

随想 60

母からのプレゼント 西村栄子(横隈)

去年、母が私の小学校から高校までの通知表を手渡してくれました。日々の忙しさに紛れて幼い頃を振り返ることもほとんどなく、生まれていきなり大人になったような気持ちで毎日を過ごしていますが、セピア色をしたそれを開けると、その時々「私」に出会うことが出来ました。引越したばかりの小1の頃、友だちもなく、とても内気で小学校が怖くさえ感じていました。鉄棒も跳び箱も出来なくて体育の時間はズル休みすることも。小3の頃、クラスの友だちが私を学級委員に推薦してくれました。それがとてもうれしくて、その時から少しずつ積極的になれたような気がします。小4になると初めてのクラブ活動…私は音楽クラブに入りました。今人気の黒木瞳さんは2年先輩で今思うと不思議ですが、昼休みになると二人約束をした訳でもないのに一緒に練習をしていました。その時、彼女がわたし用に譜面を手作りしてくれていました。いつも彼女が手に持っていた白いハンカチが眩しかったのを覚えています。



中学生になると、運動が下手だと思っていた私は文化部を希望していましたが、友だちから「女子バスケット部のキャプテンがかっこいいから入ろう」と誘われて何となく入部したのですが、バスケットに出会えた事で「私にも出来るんだ」と自信がつき、それから体育が得意になりました。

「出来ないのではなく目覚めるきっかけに会えていないのだ。やってみないとわからない。あせることはない」これは、その時からの私の教訓となりました。高校時代もバスケットの熱は冷めず、汗も涙もともに流した友達とは、卒業してかたりの時が流れた今でも、時々会っては交友を深めています。

私には3人の子がいます。その子ども達が幼い頃から描いた絵をファイルしています。裏にコメントをつけて…。楽しかった時、悲しかった時、苦しかった時。いろいろあったけれど、あの頃があるから今の自分があるんだ！と、振り返られるよう、母が私にしてくれたように私も子ども達に、自分を振り返ることの出来るたくさんの思い出を残してあげたいと思っています。



次号(10月号)は、松藤良子さん(みくに野団地)にリレーされます。